

FoodStyle 21(2006)掲載原稿

第2回トナリンCLAセミナー開く ～抗メタボリックシンドロームに有効～ コグニスジャパン



柳田晃良教授

最近、CLA(共役リノール酸)の様々な臨床試験が世界中で相次いで行われ、機能性素材として面白い存在になってきている。CLAを取り扱うコグニスジャパンは12日、第2回トナリンCLAセミナーを開催、CLA研究の第一人者である柳田晃良佐賀大学教授やコグニス社のCLA担当R&D責任者のドリス・ベル博士らが講演した。

柳田教授は「日本におけるCLA研究最前線」と題した講演のなかで、抗がん、抗肥満、抗動脈硬化、抗糖尿病などを報告。実際に肥満ラットの臓脂肪や肝臓TAG濃度を顕著に減少させることを見出したことや、新しい生理作用として血圧上昇抑制作用、脂肪肝改善作用を紹介した。血圧上昇抑制には、インスリン抵抗性を改善するアディポネクチンの産生亢進が関与していると考えた。

CLAは今から25年前に発見され、10年前に初めての臨床試験が実施されてから、すでに20以上の試験が実施されてきた。ドリス・ベル博士は具体的にこれらの臨床試験を説明した。CLAではGaulhierらの長期摂取試験が知られている。この試験はノルウェーで中度肥満(BMI 25～30)の180人に二重盲検試験で実施されたもので、1日CLAを3.4 g摂取し、12カ月後にBFM(体脂肪質量)を測定したところ、健康な肥満成人に対して有意にBFMを減らすことがわかった。続いてこの試験を追試験として12カ月のオープン試験を実施し(プラセボ区も摂取した)、結果として先試験でBFMが減少した区ではその脂肪量を維持し、変化のなかったプラセボ区ではかなりのBFMを減少させた。この2年間の長期試験では、少なくとも2年間にわたり安全で継続摂取することで減少したBFMを維持することが証明された。このことは70人の日本人においても最近臨床試験が行われ、同様の結果が得られたという。

セミナーの最後には、マーケティングコンサルタントのハビア・モラン氏がスペイン最初のノーベルフード(日本のトクホに似たEUの制度)に、CLA含有の乳飲料が認められ、現在爆発的にヒットしていることを紹介した。